2023. 8. 9

8月例会

日　時　令和五年八月九日（水）

テーマ　目覚めた大国インドのポテンシャル
　　－ 最先端AI技術開発におけるインドとの産学連携

講　師　AWL株式会社取締役CTO
　　土田 安紘 氏

土田 安紘 氏

■ 略　歴

北海道大学大学院修士課程修了。2001年4月に松下電器産業株式会社（現パナソニック（株））に入社し、NTTドコモ向け携帯電話のミドルウェア開発に従事の後、本社R&D部門にて幾つもの新規事業開発プロジェクトを牽引。その後、米国シリコンバレーでの社内起業プロジェクトリーダに抜擢され、2012年から2016年まで米国・日本市場向けのモバイルO2Oサービス事業の立ち上げを主導。

AI新時代の到来、AI活用ビジネスの最前線で業界リーダーとして“ふるさと北海道”からグローバル市場を切りひらくための挑戦の場として魅力を感じ、参画。全社技術戦略、知財戦略を統括。2019年9月に取締役就任。

インド工科大に新拠点

北大発アウル　AI研究で連携拡大

【ムンバイ=花田亮輔】北海道大学発スタートアップのAWL（アウル、東京・千代田）は、インド工科大学（IIT）ボンベイ校との連携を拡大する。16日、画像処理などに関する人工知能（AI）について共同研究の契約や覚書を交わした＝写真。今後は同研究の拠点を設け、AIを使ったカメラ開発への応用を進める方針だ。

商都ムンバイにあるIITボンベイ校で同日、共同研究契約などの調印式を開いた。アウルは店舗の来店客の人数や属性などを分析するAI開発を手がけている。

IITは理系人材の最高峰とされるインドの名門大学として知られている。アウルは同校内で建設が進む産学連携施設に、新たな拠点も設ける。

調印式に出席した同社の土田安紘・最高技術責任者（CTO）は「この拠点を『ビジネス展開のハブにしていきたい』と述べた。

同社はインドの人材に注目し、これまでもIITボンベイ校と基礎技術に関する共同研究を行ってきた。直近ではインド南部のベンガルールに子会社を設立した。

アウルはかつてサッドラホールディングス（HD）の連結子会社であり、両社は現在も資本提携関係にある。アウルの社外取締役を務めるサッドラHDの富山浩樹社長は現地の調印式で「リアル空間での画像認識のニーズは非常に高い」と述べ、研究体制のグローバル化に期待を寄せた。

北大発アウル、インド工科大に新拠点　AI研究で連携拡大
2022/08/17 日本経済新聞　地方経済面

我が社のストラテジー

AWL

店舗向けＡＩ、海外が注目

北海道大学発スタートアップのAWL（東京・千代田）は社員の7割超を外国人が占める。主力は小売店舗向けの人工知能（AI）サービス。パナソニック出身の天野が目指してきた「とがった会社」は海外での認知度もうなぎ登りで、1人の求人が8800倍の人気を集める者でになった。

「こちらはロシアから来たウィクターさん。バブさんは京大大学院の卒業生で、アームストロングさんはアンゴラの出身です」。4月末、記者が北大に訪るAWLの開発拠点を訪ねると、採用を担当する田美那チーフマネジャーが社員を紹介してくれた。社内は英語が公用語で、壁一面のホワイトボードに数式がびっしり書かれている。

受託開発でなく自社サービスの開発・販売に経営しないかとオファーがあり、飛びつんだ。

新型コロナウイルスの感染拡大局面では、店舗の混雑やマスク着用率を可視化して「3密」をトリーターとして米ストアに出身の人材を活用するナッポロ・ラッ験が始まった。インド出身のバブさんは「自分の国ではできない研究」「面ない」と多様な人材の創造力を実感していた。

美那さんは幼少期にタイとオーストラリアで10年間過ごした帰国子女。

田安紘さんはいずれも北大卒で、パナソニック出身。北大からAWLに参加。アウルの社員は「自分の会社になるにはこれが白い」と目を輝かせる。

安紘さんはパナソニック在籍時の12年から4年間、社内起業プロジェクトリーダーとして米シリコンバレーに赴任していた。スタートアップで活躍する優秀なインド出身の人材に触れ「とがった会社になるにはこれが」と多様な人材の創造力を実感していた。

美那さんは幼少期にタイとオーストラリアで10年間過ごした帰国子女。

外国出身者が７割強を占める。左奥が土田美那さん（４月、札幌市）

１人の募集に800件殺到も

北大の卒業生や海外のインターン生だけでなく、採用には美那さんの行動力も大きな役割だ。インドでは飛び込み営業でいい結果を出せる。インド工科大の就職課と関係を築き、1人で現地に赴いては直接学生を採用した。インドIT科大と共同研究も決まり、社員に頼れて海外に住む家族をねぎらうこともある。

従業員は18カ国から集い、平均年齢が20代後半の若い技術者陣にはインドやアフリカ出身者が多い。会社は役所での手続きなど日常生活の支援までサポートしてきた。4月末時点の社員数はフルタイムを含めて69人と5、6人だった1年前から倍増した。外国人比率は74%に達している。

海外の学生からの問い合わせは毎日のように舞い込む。1つのポジションを募集すると800件の応募が殺到することもある。2019年1月期の売上高は前の期比36%増の約2億4500万円。今後も年10人ペースで採用を続ける構えだ。

新型コロナの流行以前から、「社会の価値観が変わるのはむしろチャンス（安紘さん）」。世界に集まる社員が生み出す多様性と技術でピンチをチャンスに変えるる。

（向野感）

キーワード

▼北大発スタートアップ

20社超　北海道大学は研究実用化の加速を狙って2016年、大学発ベンチャーの認定制度を始めた。認定企業はAWLを含め20社を超える。北大は国の特別支援の対象となる「指定国立大学法人」を目指して「世界トップ」を目指した他の旧帝大と比べ少ない民間企業との連携を増やしたいとの狙いだ。

AWLの土田安紘CTOは「日本人にとって不利な環境では世の中を変えるビジネスは生まれにくい」が持論。札幌の風景は米シリコンバレーと似ているという。「将来はAWLのような会社を増やし強い幌をつくりたい」と意気込む。

北海道大学発スタートアップのAWL（東京・千代田）は社員の7割超を外国人が占める。主力は小売店舗向けの人工知能（AI）サービス。パナソニック出身の天野が目指してきた「とがった会社」は海外での認知度もうなぎ登りで、1人の求人が8800倍の人気を集める者でになった。

「こちらはロシアから来たウィクターさん。バブさんは京大大学院の卒業生で、アームストロングさんはアンゴラの出身です」。4月末、記者が北大に訪るAWLの開発拠点を訪ねると、採用を担当する田美那チーフマネジャーが社員を紹介してくれた。社内は英語が公用語で、壁一面のホ

AWL — 店舗向けAI、海外が注目、1人の募集に800件殺到も 2020/05/21 日本経済新聞　地方経済面

道真 HAKUSHIN　目覚めた大国、インドの実像 2

荒野に200万人都市

2月25日、インド西部マハラシュトラ州のオテルでインド工科大学ボンベイ校の学生が事業や技術のアイデアを競う「ハッカソン」が開かれた。「こんな短期間で市場調査したりプログラミングのコードを書いたりしてるとは」。審査員を務めた北海道大学発の人工知能（AI）スタートアップ、AWL（東京・千代田）の土田安紘は目を丸くした。

小売店に対するAI活用をテーマに、参加者を募集したのは1カ月前。試験期間も重なったが、学生50人のチームが申し込んだ。「このバイタリティーは魅力だ」。土田はインド人材を増やし事業を拡大する心に決めた。

人口14億人のインド。優秀な人材であり巨大な消費者でもある同国の人たちを取り込めば急成長を果たせるーー。膨らむ期待が企業を引き寄せる。

インフラが発展途上だけに、IT（情報技術）を最使した仕組みが一見興味で広がる「リープフロッグ」現象が頻発するのも魅力だ。生体情報と連動した個人番号制度、「アーダール」は国民の9割以上に普及した。

南部のIT都市ベンガルールは、「日本と比べて反応が10倍遅い」。インドのIT企業の最高技術責任者（CTO）、若狭建はうれしい悲鳴をげる。12月に京・千代田）の土田安紘は目を尊ったエンジニアのインターン生。

「他社と比べても遜色ない待遇だ」。インドのIT企業の最高技術責任者（CTO）、若狭建は「新しい都市をつくるに、10年後には200万人が住むエリアになる」と強気だ。

国内外から企業を呼び込み、ベンガルールのような新たな主業都市を誕生させる野望を抱く。すでに地銀系情報技術センター（フォックスコン）が組み、半導体工場などの建設を予定する。シュクラは未中対工を首脳に「サプライチェーン（供給網）が見直されている機会を生かせ」と目を輝かせる。

インドでは過去にNTTドコモや第一三共など撤退していった企業も多い。現地の優秀な人材をいかに取り込んで浸透できるかが成否を左右する。

（敬称略）

目覚めた大国、インドの実像（2）荒野に200万人都市
2023/04/05 日本経済新聞　朝刊